

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神奈川県立体育センター等特定事業(本館棟)	階数	地上7F
建設地	神奈川県藤沢市善行7丁目3347番1他	構造	S造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準住居地域、準防火地域	平均居住人員	220人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,120時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2018年3月5日
敷地面積	7,000㎡	作成者	清水建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	2,978㎡	確認日	-
延床面積	14,747㎡	確認者	-

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
正門廻りの既存樹木を極力保存しながら整形剪定することで、緑豊かな環境を維持しつつ、本館棟への視認性も確保する計画とした。正門から善行駅に至る敷地内主動線に木立をイメージした路面サインを設け、歩車分離を行い、安全に各施設へ利用者を導く構内通路ネットワークを形成する。本館前にベンチを配置した『木もれび広場』を設け、利用者・周辺住民の憩いのスペースを創出する。	-	
Q1 室内環境 全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。また、階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) メダカ飼育スペース、教材園の設置により生物とのふれあい自然に親しめる環境づくりで生物資源の利用に配慮している。
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される